



大屋祐義書上

民権議院設立の議 明治八年

服部文庫
417
2189
78



117 特
2189
79



417. 1780

大屋祐義頓首再拜

自祐義本年十月七日ヲ以テ乞韓ノ議ヲ草シ諸公閣下ニ
献言ス今ニシテ殆ト一月猶ホ可不可ノ高論ヲ聽ス而シテ日夜
慷慨憂憤ノ情制スベカラス胸臆ニ感心スル所覺エズ積テ
若干言ヲ成ス又書シテ諸公閣下ニ献ス語ニ曰ク狂夫ノ
言モ聖王人ノヲ擇ムト其シヲ擇ムハ諸公ノ任ナリ諸公ノ
責ナリ且ツ政府ナル者ハ一國人民ノ合集ニシテ設ケル所
人民ナケレハ則チ政府アル無シ故ニ人民トシ政府有司ノ
不良ヲ訴フルハ則チ人民ノ義務上ノ一部分ナリ而シテ其有司
モ亦人民ノ發跡スル者ナレハシヲ訟ヘシヲ責ムルハ人民
其政府ヲ愛慕維持スル所以ノ者政府豈此発跡有
司ヲ愛護シテ人民ヲ棄任スルノ理アラヤ故ニ祐義ノ
呶リ諍リ屢ハ諸公ノ視聽ヲ煩スハ祐義ノ義務上ノ

服部文庫
117

一部分ヲ尽シ日本国民タルノ所爲ニ斥戾セザランコト欲
スル也請フ諸公江海ノ量ヲ以テ其能クシテ之ヲ容ルアラ
ニコトヲ我皇國東海ニ此コトスルニ茲ニ三十五百有餘年
未タ曾テ外國ノ侮辱ヲ受ケル者無シ矣政戊午始テ
亞國ト交リ修ルヤ歐洲各國陸續來航彼我ノ公使ヲ通
シ修交條規ヲ定メ互比皆問然ナキカ如シ然レトモ其
外國ノ欲望スル所皆自國ヲ強盛ニシ我國威ヲ損減ス
所ノ者アリ是則地球開化ノ漸及スル勢ト止コト得サル
ニ因テ也故ニ政府ニ從事スル者ハ急々及ク日夜不怠
内皇威ヲ洪張シ外國ノ侮慢ヲ受サルノ理法ヲ研
究シ神祖建國ノ偉業ヲ保存シ今 白皇中陛下ノ
宸襟ヲ慰安シ奉シト欲ル亦諦ヲ待ス独怪昔來
我耶屬タル朝鮮國ニシテ我使節ヲ任テ我ニ不敬



ハ言テ贈ル而シ政府置テ問サル者已ニ數年苟モ血性
アル者ニシテ慷慨痛憤セサル無シ故ニ其慷慨痛憤志
疑ツテ佐賀ニ暴發シ國憲ニ觸ル者幾百人尚且ツ
敬シテ台湾ニ激撃シ熱毒ニ暴死スル者幾百人當
支那ニ響隔ヲ開ク嗚呼如此ハ政府ニ從事スル者ノ之
ヲ謀ルコトヲ得心ト謂フヘキ乎此時ニ當リ祐義我等
カメテ慷慨痛憤セザラント欲スルモ亦能ハサル也夫
癸酉征韓ノ議ハ政府内決スルアリト虽モ國人未タ
與リ聞カサル者アリシヲ忍フモ猶可也而シテ佐賀台
灣ノ事アリ況ヤ本年九月二十日韓人我雲揚鎗
ヲ砲撃スルニ於テヤ閩ノ韓人ノ我ニ砲撃スルヤ其砲
臺ヨリスト夫レ砲臺ハ外射ヲ防ホスル爲メ其國政
府ノ建設スル所然則韓國政府命シテ我ヲ砲撃スル

者智者ノ説ヲ待タスシテ昭クタリ其我ヲ侮慢恥辱
スル實ニ亦甚シト謂ヘシ此時ニ於テ其罪ヲ問サレハ
果何日ヲ待テ征センヤ獨立國ノ權利亦何リニ在ル
哉而シテ國辱ハ則チ民辱ナリ祐義我等各自民權
上ニ於テ幾人カノ侮辱ヲ受ク此侮辱ヲ雪カサレハ縱令
死スルモ亦地下ニ瞑目スル一能ハサル也頃者而切ニ廟議
ヲ推考スルニ内治未タ洽チカラス金穀欠少之甚ナリ故ナル
ハシト雖モ若クハ大臣永ク名器ヲ貪リ安逸ヲ謀ル爲
ナラシカ祐義大ニ之ニ惑フ故ニ其證據ヲ挙テ尤ニ十
一條ヲ縷述シテ世或心フ所以ノモリヲ諸公ニ質問セ下ス
一明治元年三月御誓文ノ第一曰廣ク會議ヲ起シ万
機公論ニ決スヘシ第一曰上下心ヲ一ニシテ盛ニ經論
ヲ行フヘシト其一ニ民撰議院ヲ起スヘキヲ約セシ明文

也其二ニ人民政權ニ預ルヘキヲ約セシ明文也夫レ政府ハ國民
ヲ保護スル爲メニ設クル者ニシテ政府ヲ設クルカタメニ國民
ヲ束縛スル者ニ非サルハ苟人民ノ承認スル所也故ニ政府
法ヲ立ルヤ人民ノ欲望主スル所ニ從テ之ヲ保安シ熾悪スル
所ニ從テ之ヲ禁止ス故ニ政府新法ヲ立旧法ヲ改メシト
スルヤ文明各國先ツ人民ノ欲望嫌悪スル所ヲ細議
極論セシメ定メテ以テ成法トス是則民撰議院ヲ設
ク國政ニ參畫セシムル所以ナリ七年一月前參議副島
叔坦氏以下リ建言アリ是此時ヲ機トシテ之ヲ設クスヘキ
ナリ如何リ躊躇停滯シテ人テニ至レルヤ夫參議ハ内閣
議官各省長官ノ建議スル所ノモノヲ參決ス乃チ曾
テ建言アリ必スヤ將來ヲ看破シ確認スル所アリテ
然ルナリ尋常人民ハ同視シテ疑ヲ容ル可ラス哉テ同年

四月地方官ヲ招集シ以テ人民代議士トナストノ勅詔アリ
夫レ地方官ノ行政ノ任ニシテ公撰ナリ議院ハ立法ノ官ニシ
テ民撰ナリ此公撰官吏ヲシテ民撰議員ニ代用ス名実
相及ス其實功ナキカ如シ適ニ任台ノ役アリ其事中止
ス本年四月又勅詔アリ其大略ニ曰立憲政体ノ規模ニ
ニ寄リテ元老大審官ノ兩院ヲ設立スト今ヤ元老院
ハ官撰ニシテ且其職掌ハ官民ノ間ニアル立憲政体
ニ於テ民撰ノ議院ヲ立ヤル其實功ヲ舉ルヘカラス
然ルヲ況ンヤ民撰議院ハ地方官會議ヲ假用シ一區
會ヲ設立スルハ區戸長會ノ多數ニ決スト抑地方官
ヲ以テ民撰議院ニ代用スルハ昨年ニ於テ猶且ツ之
ヲ非トス今ヤ立憲政體ヲ漸行スル勅詔アルノ日
ニ於テヲヤ名実相背戾スルハ是又何ノ説ソヤ抑御

折言文ヨリ擴メテ兩度ノ勅詔ニ至リ 天皇陛下民撰議院
ヲ起シ大ヒニ公議輿論ヲ採用アウセラルノ殿旨ニシテ何リ
其殿旨ノ貫徹セサルヤ抑公議輿論ニ背
戾セシムル者アルカ是不可解第一條也

一御誓文ノ第一曰官民一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂
ケ人心ヲシテ倦マサラシメントコト要ス第一曰舊來ノ陋
習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシト其第一ハ人民各自
ノ智識ヲ磨所シ精神ヲ言行ニ充達セシメントノ明
文ナリ第一人民積年壓制ニ慣スル所ノ卑屈心ヲ去
リ固有權カヲ振起セシメントノ明文ナリ夫此二條ノ
意ヲ達セシメテハ發言ノ自由ヲ得テ而後其思想ヲ
達スヘシ本年六月詭譎律新聞條例ヲ公布ス是其
自由發言ヲ束縛スル者ニシテ御誓文ノ意ト太相背

宥ス或ハ疑フ此ノ皆宥ヲカス者當時有司者聖意
ヲ境々自己ノ行為ヲ人民ニ知ラシメス永ク其地位ヲ
固有セントスルニ非サルカ然ラサレハ諛謗律新聞條例ヲ
破毀シ自由發言ヲ許シ天下人民ノ言ハント欲スル所ヲ言ハシ
マテ可也又何之ヲ束縛箝制スルコト之レ有ラズヤ是不
可解夢ニ條也

一 本年中新聞紙ヲ閱スルニ屢々樺太島ヲ魯國ニ讓與
シ千島ト交換スルノ事又ヲ記載ス此古又果シテ實ナラズ疑
ナキコト能ハス万国公法ニ曰土地分讓ノ權ハ國議ノ決ヲ
以テシテアサレハ徑行スルコト得スト昨年大久保大使ノ
清國政府ト台湾地方ノ事ヲ議スル萬國公法ヲ取テ
是非ヲ剖明ス清臣詔書テ止ム者多シト云フ夫清
政府ニ説ハ公法ニ據テ之ヲ理論シ魯政府ニ談スルハ公

法ヲ全クテ之ヲ理論セズ然則清ニ公法アリ魯ニ公法ナキカ一
據一舍万国公法ノ名何クニ在ルヤ本邦未々國議決定ノ
コトナシト雖モ一旦シテ其交換ノ條件ヲ公布シ全國人心
ヲ甘服シテ而後ニ之ヲ行フヘシ何ソヤ隱蔽シテ私擅
ニスルコトヲ得ン且樺太千島皆是本邦版圖中ノモノ
是交換ニアラス割与スル也白露國賣奴船ノ事ヲ
裁判スルカ爲メ此侮媚ヲ行フモノカ然ラサレハ尺土
寸地モ割与スヘカラス且是不可解夢ニ條也

一 六年七月征韓ノ議ヲ沮格スル後穩和ノ計ヲ以彼ヲ甘
服セシムル処置ヲナル可ラス而ノ彼益々我ヲ侮慢シ
孤軍追ノ我理事官ヲ拒防シ終ニ謂レナリ我雲揚
艦ヲ砲撃スルニ至ル如此ハ穩和甘服ヲ謀ルル処
置何シカ在ルヤ是不可解夢四條也

一 征韓ノ議ヲ沮格スル者ノ言ニ曰内治未タ洽カニス外征未タ急ニ
スヘカラス況ヤ此際人五穀欠クノ憂アリト然レ而シテ卒然
台師ヲ起ス夫ヲ所殆ント一十萬口ニシテ得ル所僅ニ五千カ
ト人五ニ不過一金穀多ク欠ク憂フル者ノ為ス所能ク如此カ而
シ征韓ノ非ナレバ征台モ亦非ナラフコト朝鮮ハ君主アリ臣民
アリ台湾ハ野蠻無主ナリ嗚呼野蠻ノ地ハ可討君
國不可征カハ是不可解芥五條也

一 兵事ハ一國民命ノ關スル所之ヲ容易ニスヘカラス
先台台臺ヲ征セントスル巨シク其征スヘキノ條理ヲ諱
述シ全國ニ告諭シ民心ヲ甘感心シ然ル後ニ師ヲ興
スヘシ去年四月出師前一ノ公布ナク十一月十七日
ニ至リ突然清國ト和議ナル事由ヨ公布ス始ハ
兵士ノ私戦ノ如ク後ハ政府ノ公戦ニ似タリ苟モ

國家ニ從事スル者ノ為ス所此ノ如キカ是是不可解芥
六條ナリ

一 征台ノ軍長崎ニ屯スルヤ外人異言アリ内史ヲ駛セテ
其軍ヲ停メントス軍人命ヲ奉セス大久保矣多議モ
亦長崎ニサ位ニ其事ヲ整頓シ復命ノ畧ニ曰清國ニ
對シ候テ勿論外國交際上ニ不都合ヲ生シ國家ノ
大難ヲ醸出候節臣利通其責ヲ受候覺悟云々
ト爾後清國ト理論ヲ起シ大久保氏亦清府ニ使ス
和議成リ條約濟リ彼政府ヨリ償金ヲ容ルルニ布
告アリ後其餘約書ヲ熟視スルニ事理曖昧償金
ノ事更ニ明文ナシ如此キハ嚮キノ責ヲ受クルト云フ
者ハ難民撫恤道路ヲ開キテ方々屋ヲ建ル費用
ヲ清ニ請求スル而已カ是甚不可解ノ芥七條也

一 七年十二月十日大久保氏總理衙門ニ踵リ清國諸大臣ト談スル
大畧曰抑討サ番ノ儀ハ素ヨリ我ニ於テハ上下悞認ノ上着手
セシコト之レ有リ云々又曰我政府討サ番ノ義我務ハ上下悞認
為セシコトニ中畧我人民ニ對シテ申訳無ル可ラス云々夫
此上下悞認上下悞言ツテ為ストモ言ハルハ何ヲカ指スヤ前條
陳スル如ク公布スルノ理アラニヤ此ノ如キ慮安不実ノ言ハ縱令清
政府ハ欺クキモ我人民ハ決シテ欺ク可ラス且己ニ我人民ニ申訳
ナシト清政府ニ明言シテ而シテ歸朝ノ後未ク我人民
ハ對シ何等ノ説諭アルヲ聞スロク之不可解ノ事八條也
一 佛國憲法ニ據レハ下院閑院ノ時非常事故アレハ皇帝
ノ命ヲ奉レ申告シ元老院ヨシテ下院ノ職ヲ代任セシムト
本邦未ク下院ヲ置カス然レハ非常ノ事故アルニ當ツテハ
元老院ヲ開キ其職ヲ充テシムベシ今テヤ朝鮮ノ事

國ノ采府ニ關シ事故大ナル者ハ王國ノ有志者必ラス建言スル者
ヨカレハ該院既ニ開キ章程未ク具備セサル所アルヲ以テ貝會集
セテ聞ク果シテ然ラハ國家ノ采府ニ關シ事故大ナル者何処ニカ之ヲ
精論熟議スルヤ是不可解ノ事九條ナリ
一 本年三月我 天皇陛下極壇退助ヲ引見シ其意見ヲ問ヒテ
退助奏答スルニ平生國家治安ノ為メニ講究スル所ノ立憲政体
ノ事多ク議ト各首長官ノ兼任ヲ分離シ專ニ一官ニ從事セシム
ノ事ヲ以テ而シテ其意見ヲ採用スル 勅諭アリ以テ職ニ參議ニ
復スルヲ以テ職タルヤ將來ノ利害得失ヲ之固實熟議シテ
國家富強ノ治ニ安ヲ云ニアリ 故ニ穆肅沈靜ナラハ其事ヲ
盡ク能ス又各省長官ハシレニ異ナリ維新創業ノ日未ク淺ク
百事艱當 劇務繁冗日以テ夜ニ繼クモ猶モ之ラス故ニ其
職務ヲ尽サント欲セハ一官猶餘リヤリ況ヤ西官ヲ兼任スル理アラニヤ

是則昨七年八月十七日祐義書ヲ九院ニ獻シテ此意ヲ及復説明スル所以也嗚呼古ノ君ヲ諍スル者獻言スト虽モシラ實事ト為シテ以テ敢テ君ヲシテ其非ヲ顯ハカシメストヤ 天白陛下ハ退助ノ意見ヲ採用シテト云フ明詔アツテ而シテ其意見ハ用ヒラレズ是何者權敬ス所ノ是不可解茅十條也

一 六月十九日島津九大臣上奏シテ三條太政大臣ノナス所ヲ極言彈劾ス其書採納ヲ得テ云フ其採用ヲ得ル者九大臣ノ言夫ヲ君愛サズ太政大臣ヲ諍誣スル者アハ宜ク成法照シテ其罪ヲ治ナシ可也而シテ未ク左大臣ヲ推問シ其罪案ヲ議スル聞ス然レハ則九大臣ノ言ヲ所ハ是ニシテ太政大臣ノ行^行所非乎且其是ナル者ヲ嘉納シテ其非ナレ者ヲ斥討シテ可也二大臣ノ言行共ニ是ナリト謂フニ至ツテハ天下決シテ此理無シ今テ有柄川熾仁親王ノ上言ヲ見ルニ上ニ至意^上思^心田各九大臣ノ上ニ至意^上同シ親王^王島愛國ノ至誠

山豆敷九大臣ニ依比シテ太政大臣ヲ惡視スル意アマシヤ若シ大ニ見ル所アリ然ルナリ親王九大臣ノ上言ハ已ニ天下ニ傳播ス復々隱蔽ス可ラス天下ノ人屏息シテ是非決ヲ待ツ是不可解茅十一條也

以上陳述スル所ハ米心ヲ祐義ノ不可解所思フニ是之在廷ノ大臣名器ヲ含リ安説ヲ謀リ陛下ノ明德ヲ敬奉リ我皇國ヲ忠愛感心而復減セシムモノ也曾^在在^在留^在外國教師我政府ヲ目シテ衆裁役君ト誹謗ス又前參議ハ有司專制ト慷慨スル實ニ過言ニ非サレ也而シテ九大臣島津久光參議板垣退助辭表ヲ上リ職ヲ辭クト其意大臣參議ノ言行進共全國人心ノ向背ニ關ス是固ヨリ容易スカラス而シテ其人ヲ斥ルノ言易ナレ弊履ヲ去ルカ如ク嗚呼正ニ我國家ヲ憂フル者ハ用ヒラレズシテ詐偽安逸ヲ營ムル者ハ勢ヲ得テ位ヲ固クス此ノ如キ國家衰運ノ極全國ノ人民政府ヲ尊信セザル亦且ナレ哉人民政府ヲ尊信セス

故三百貨ノ流通是ヨリ極マラン夫如此ナレハ群盜四方ニ起リ
土崩瓦解拾収スヘカラステヤ綸言如汗ノ勅詔スラ行ハサル
如此政府ノ久ニ信ナキ此ノ乃チ政府アレモ政府ナキナリ然則
之ヲ為ス如何ニ三擅權ハ大臣ヲ任ケ退讓節ヲ守ル舊
矣多議ヲ登庸シ速カニ征韓大令ヲ煥發シ天下人心ヲ煥
發シ天下人心ヲ振起スヘキ也祐ニ義外邦ノ政典ヲ熟讀ス
ル元老院ハ政府ノ事務ヲ詰問シ又宰相ノ四討ヲ許フルノ
權アリト仰キ願ハルノ則條陳スル所ヲ靜思熟考シテ其
情由ヲ奏問シ雲霧ノ擁ヤ敬ヲ掃ヒ日月ノ光明ヲ輝シ
皇統國體萬世欽ルナキノ基礎ヲ確定セシムラ若シ祐義
カ陳述スル所其當ヲ得セハ有司ニ付シヌ成法ニ照シ其罪ヲ
斷スシ祐義正々心國家危殆ノ形勢ヲ傍觀シサ苟モ性命ヲ
フスルニ忍ヒス故ニ此ノ危言ヲ獻ス伏シテ請フ諒宥アラシム

明治六年十一月

大屋祐ノ義

